

トカラの温暖な気候を利用した「早だしピワ」については、近年後継者不足が深刻ですが、露地ものでは九州で最も早い「トカラピワ」として出荷されています。

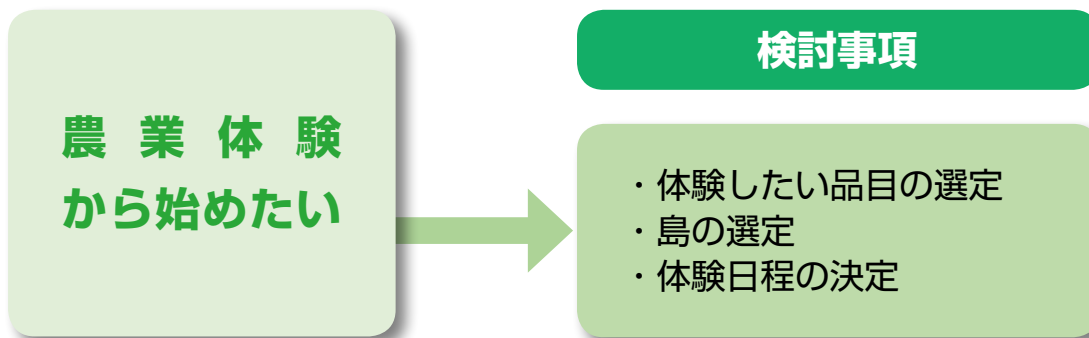
また、霜が発生しない十島村の気象条件を活かした花卉（サンセベリア）も生産出荷しています。サンセベリアについては、観賞用のほか、お盆シーズンのお墓用の花として市場に出荷しています。

平成22年度からは、中之島高尾地区の遊休農地を耕作可能な農地へ転換させ、ほ場整備、平張施設などの施設化を推進し、Uターン者を中心に組織された生産組合が柑橘及びショウガ、ニンニク等を作付し、出荷しています。

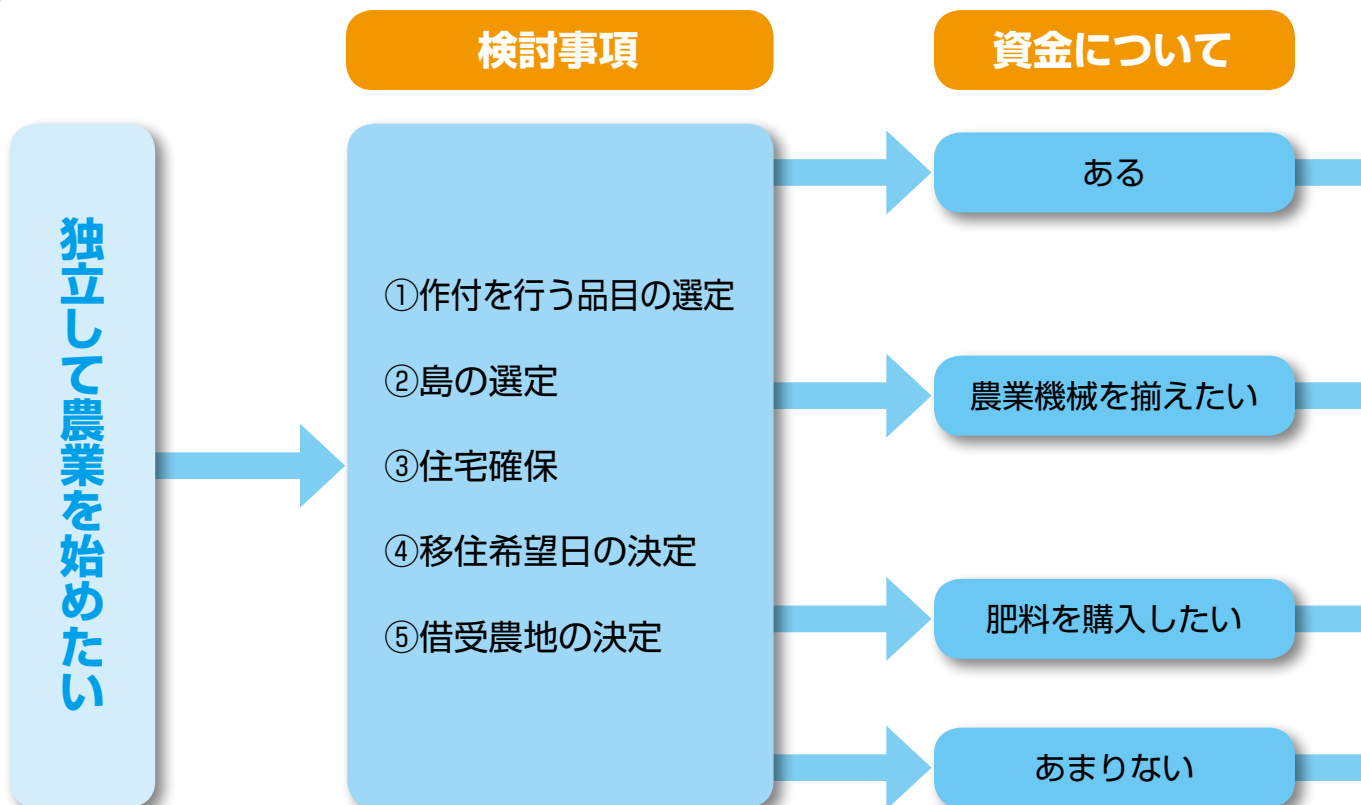
また、宝島などでは、砂丘地を利用し、島らっきょうなども作付、出荷されています。

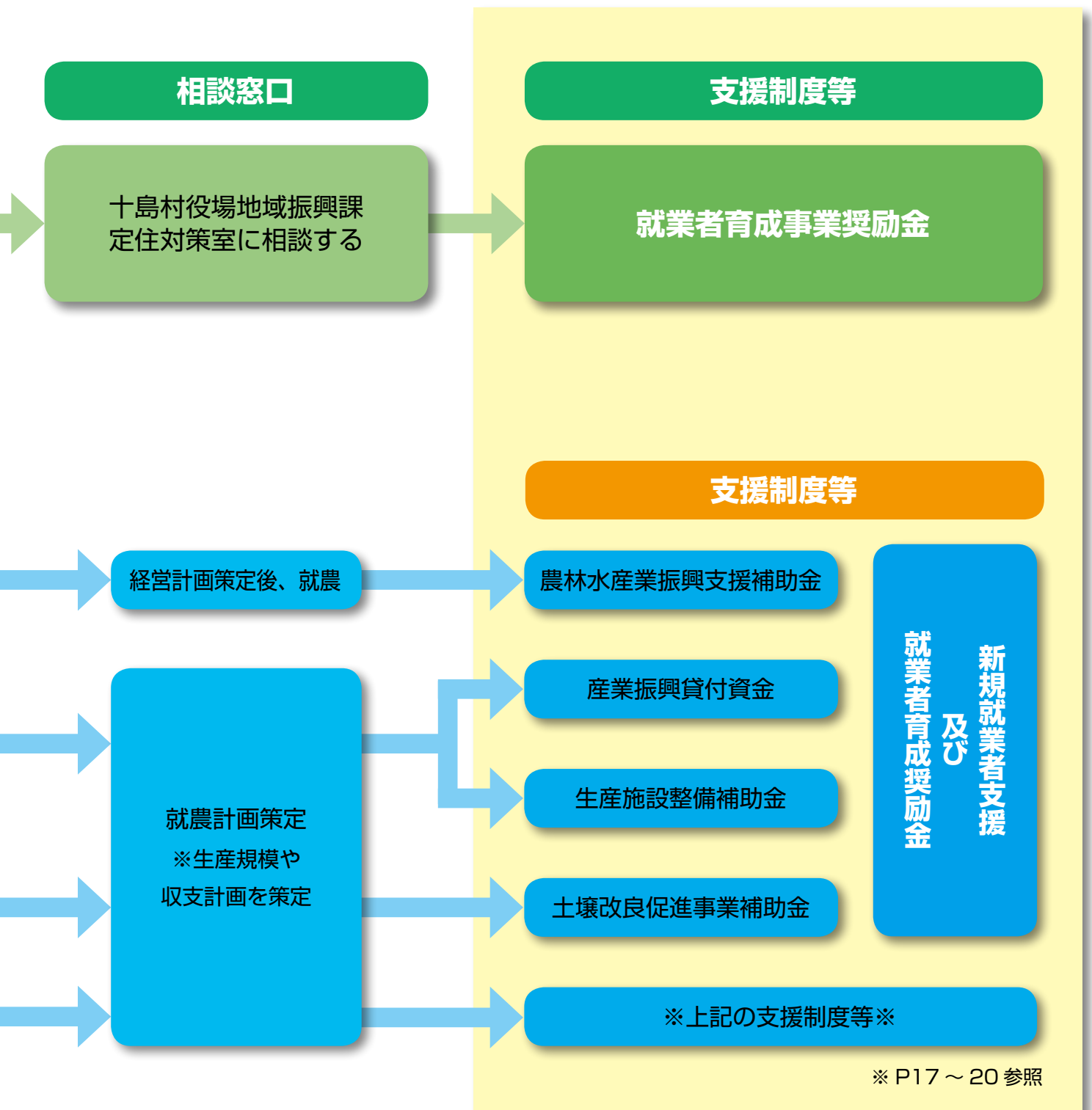
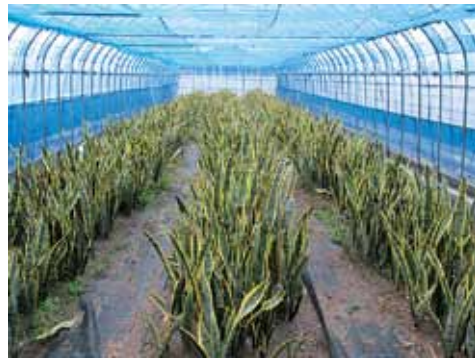
村では、遊休農地の解消に積極的に取り組み、Uターン者に貸付けを行なっています。

就農体験 に関する支援策等



就農 に関する支援策等



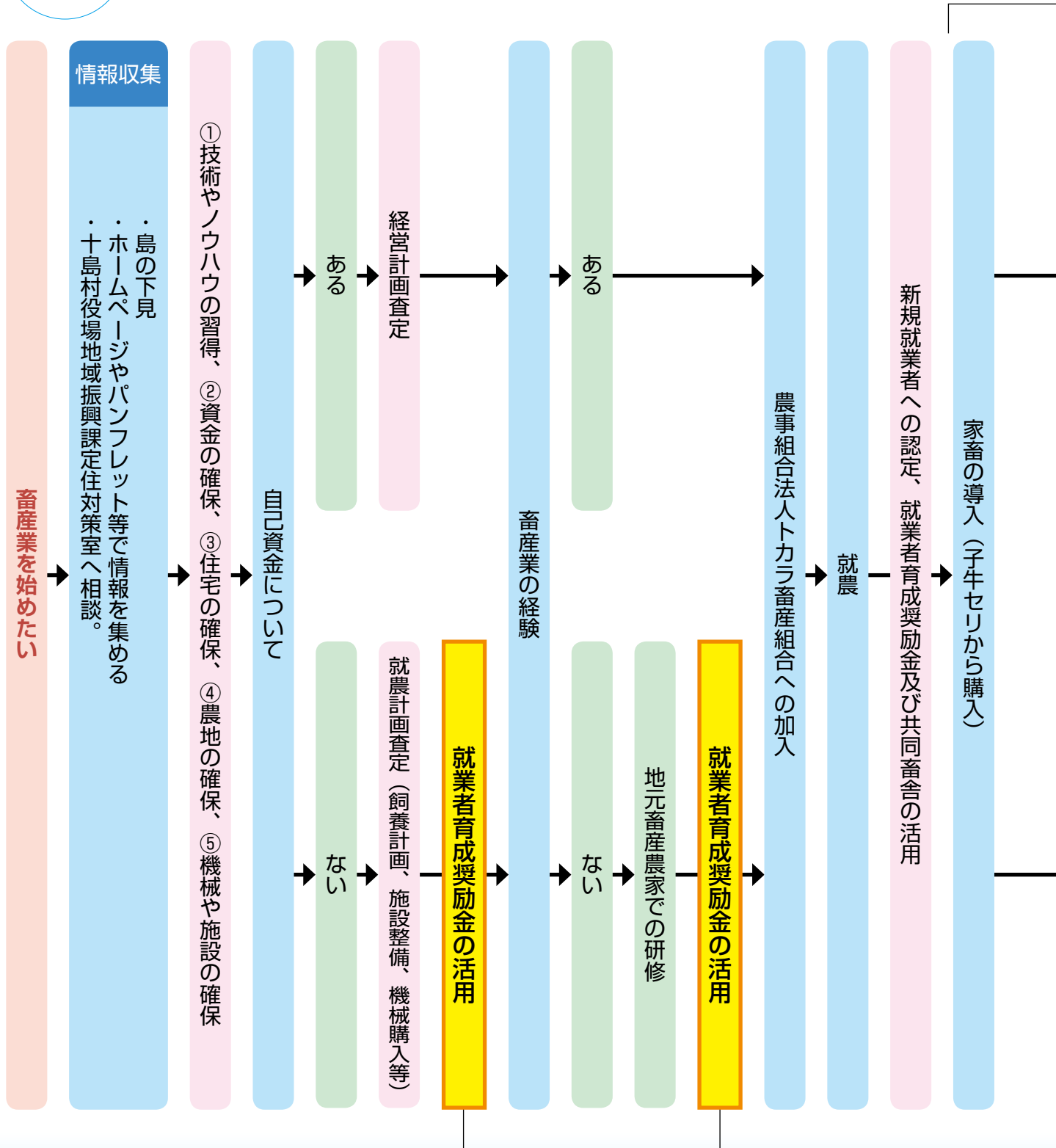


十島村の基幹産業は畜産です。村の畜産は、温暖な気候と広大が原野を利用した周年放牧体系の肉用子牛の生産です。

現在、約70戸の農家が約630頭の繁殖雌牛を飼養し、年間約400頭を本土の鹿児島中央家畜市場に出荷しています。

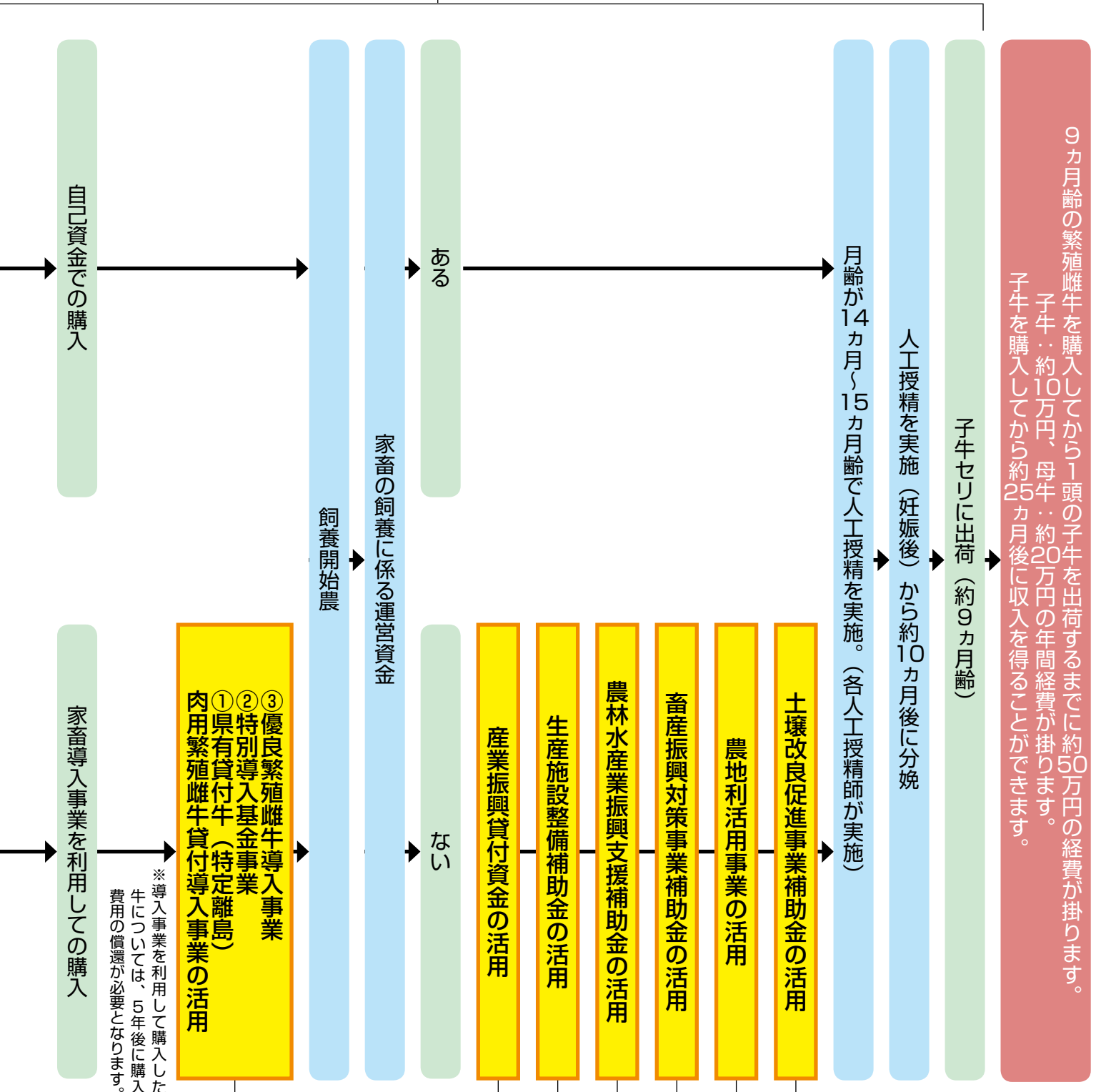
各島で活動する人工授精師が母牛群の改良及び適切な交配を実施していることから繁殖雌牛の改良が進み、第10回全国和牛能力共進会に村産の牛が出品されるなど購買者・市場関係者からの評価も上がっています。

畜産へのアプローチ





25 カ月程度



※ P17 ~ 20 参照

四方を海に囲まれている十島村。好条件な漁場として広く知られていますが、周辺海域には波が荒いことで有名な七島灘のため、出漁の日数が限られるなど、日帰り漁業が中心です。

漁法としては、5月から7月にかけて「トビウオの流し刺し網漁」と昔ながらの「ホロ引き漁」が行われ、カツオやキハダマグロ、サワラ、シイラなどの中・大型魚を対象とした漁が行なわれています。これらの他、素潜りによるイセエビ漁やイカ漁、高級魚を対象とした底のも漁などがあります。

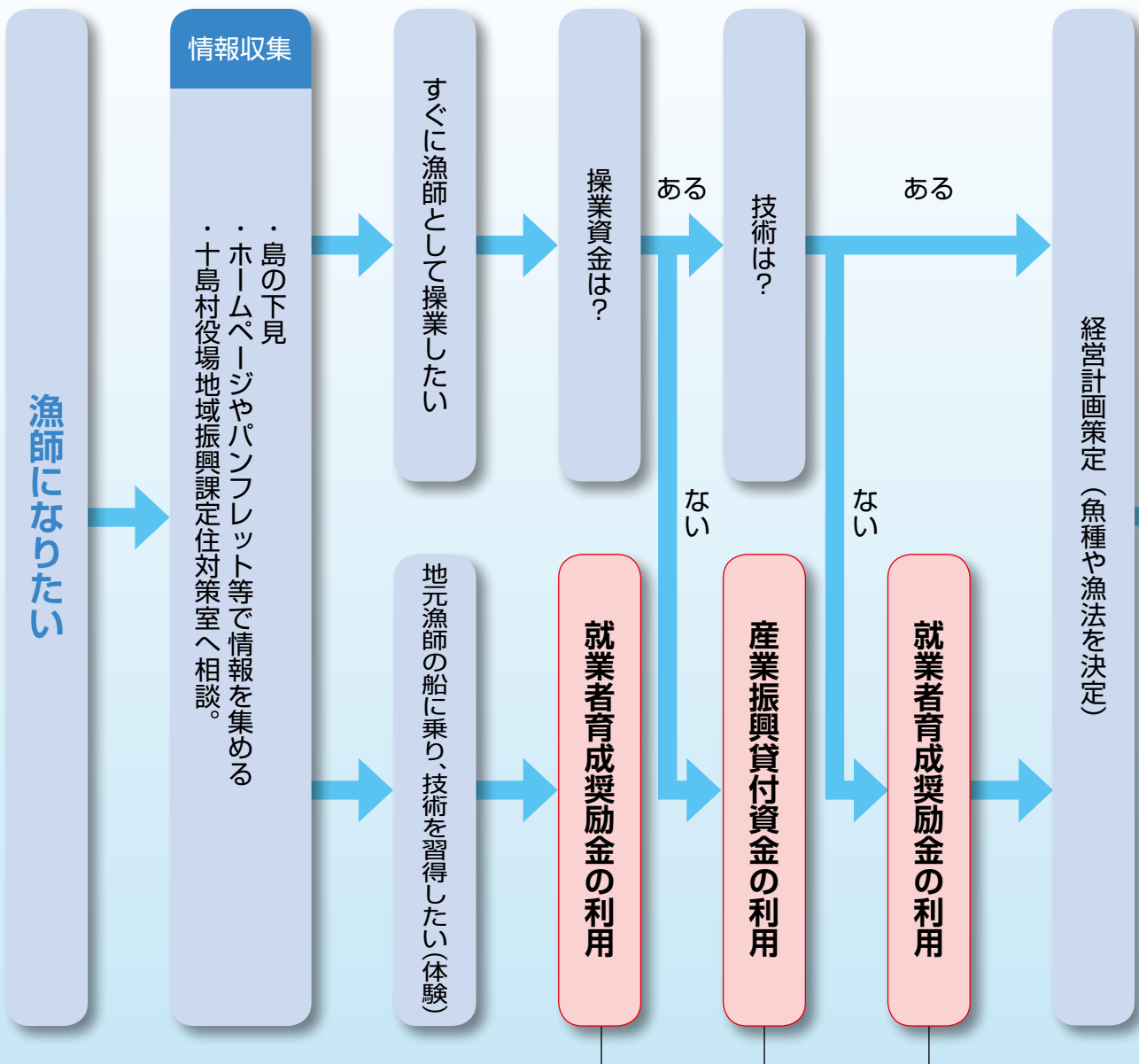
平成22年度からは急速凍結機を活用し、傷みが早く鮮魚として出荷し得なかったものや、規格外のものなどに付加価値を付けて出荷する取組みも民間企業と協力しながら進めています。

漁師へのアプローチ



あなたの希望

操業準備





操業

十島村漁業協同組合へ加入（加入要件…年間漁業日数が90日以上）

農林水産業振興支援補助金及び新規就業者認定及び支援制度の利用

※船舶免許等の取得

漁船の購入

産業振興貸付資金の利用

※漁協活動への参加

一人前の漁師

※ P17～20 参照